

鍋掛松 〈最上川伝承遺跡〉 (なべかけまつ もがみがわでんしょういせき)

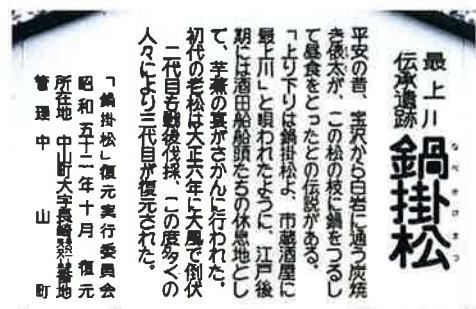
東村山郡中山町大字長崎

平安の昔、宝沢から白岩に通う炭火焼き俵太(とうた)が、この松の枝に鍋をつるして昼食をとったとの伝説がある。

「上り下りは鍋掛松よ、市蔵酒屋に最上川」と唄われたように江戸後期には酒田船船頭たちの休息地として、芋煮の宴がさかんに行われた。

初代の老松は大正6年に大風で倒伏、二代目も戦後伐採、昭和52年10月「鍋掛松」復元実行委員会により復元された。〔山形県森林協会〕

(案内略図)



【森林やまがた90号(2004年9月)記載】